

第44回水の作文コンクール 審査評(優秀賞)

賞	題名 学校名・学年 氏名	審査評	
中央審査 入選 地方審査 優秀賞	廻り行く水を繋ぐ責任 池田学園池田中学校 3年 黒瀬こころ	長年、浄水場で働いてきた祖父の水道水に対するプライドと、本人が知ったマイクロプラスチックに関する事実から、水道水を自分で調べる様子がドラマチックに描かれている。水の事実を素直に正しく知るべきことと、使わせていただいているという受け身の認識が大切であるという表現が説得力がある。	浄水場に勤務していた祖父をもつ筆者は、これまでも幾度となく「水」の重要性を耳にしてきたことであろう。最後の一文の「世界中の水をきれいに」からも分かるように、祖父の教えに忠実な筆者の強い思いや希望が感じられる。
地方審査 優秀賞	水道水のありがたみと、大切さ 志學館中等部 1年 白澤 茉依	タイからの小学生との関わりにより、水道水を飲めることが、世界では特別なことだと分かり、節水に取り組むようになる様子が描かれている。 学校の蛇口がシャワー型になっていること等、学校全体の取り組みの様子についても伝えている。	普段何気なく飲んでいた水道水。タイからの転入生の一言で、水道水について改めて考え直し、ありがたみと大切さを実感する。最後の一文からも分かるように、未来への提言と筆者自身の覚悟が読み取れる。
地方審査 優秀賞	水の大切さ 枕崎市立立神中学校 3年 鮫島 花音	家で飼っていたウサギの様子から、水の大切さを伝えており、事例として説得力がある。みんなが節水に取り組む大切さを伝えている。	大事に飼っているうさぎが体調を崩し、「水」の重要性を痛感した話題からは、その場の緊張感や筆者の不安が如実に読み取れる。文字の丁寧さからも性格が表れているかのように、読者を魅了するには十分な完成度であると感じる。

第44回水の作文コンクール 審査評(入選)

賞	題名 学校名・学年 氏名	審査評	
地方審査 入選	きれいな水があたりまえ 志學館中等部 1年 後藤 菜々	今までの自分が、水をいいかげんに使っていたことを、小六の家庭科の授業での調べ学習を通して気づきまとめている。具体的な節水や、水を保全する活動に協力している文末の表現と、作文の題が呼応しており、伝えたいことが伝わる文章になっている。	実体験や見聞したことを柱に据え、水汲みに要する時間等も詳細に述べられている文章となっている。最後の一文から筆者の思いが推察されるが、読者への訴えが明確に伝わる表現の工夫がなされればよい作品となる。
地方審査 入選	水は貴重な資源 枕崎市立立神中学校 2年 吉元 志織	書き出しの部活動の様子から、水のありがたみが伝わってくる。調べたことから事実をしっかりと取り上げ、今後行動すべきこととして、具体例まで書かれており、実践に対する意欲が感じられる。	部活動後の「水」のおいしさは誰もが一度は感じたことのある経験である。筆者がそのときに感じたことを素直に表現しているため、「貴重な水や豊かな自然」を今だけでなく、後世にも残したいという気持ちには大いに共感できる。
地方審査 入選	水の大切さ 鹿児島修学館中学校 1年 高嶋 奏史郎	家族と行った三日間のエコキャンプを通して、水の大切さを実感した本人が、世界の状況を調べ伝えている。水を大切にするためには、水についてよく知り、水に関する知識をアップデートするという表現が印象に残る。	エコキャンプ場で苦労した実体験を基に、自然に恵まれた鹿児島県の素晴らしさを再発見した筆者。最終段落の「水についてよく理解することが最も大切である」という部分から、筆者の貴重な学びの場となったことが窺える。
地方審査 入選	燃料電池自動車の利用 鹿児島修学館 2年 三原 悠矢	燃料電池車からの水を再利用しようという中学生らしい発想が面白い作文である。水の大切さから、新たな水資源を得ようという考え方が素晴らしい。	他の筆者とは違う視点から燃料電池自動車に注目し、「水」の重要性を説くことで、興味深い作品となっている。表記のミスも限りなく少なく、読みやすい。段落分けやねらいを明確にすれば、よりよい作品となる可能性が高い。
地方審査 入選	水の大切さを知った私にできること 志學館中等部 1年 高崎 莉奈	冬の水道管の凍結による不便さから、水の大切さに気づき、世界の水問題について調べている。学校での節水の呼びかけを行おうと提案している。	凍結した水道を目の当たりにした筆者。困りながらも、その後解凍され、無事に水道水が出てくれたことへの喜びと感謝が伝わってくる。ねらいや構成、表記等、すべてにおいて及第点のまとまった作品となっている。